

※出席委員あて内容確認済

第11次札幌市環境審議会 第6回会議

会 議 録

日 時：2021年1月14日（木）午後2時30分開会
場 所：さっぽろテレビ塔 2階 多目的ホール

1. 開 会

○山中会長 定刻になりましたので、ただいまから第11次札幌市環境審議会第6回会議を開催します。

まずは、事務局より委員の出席状況の報告と配付資料の確認をお願いいたします。

○事務局（東館環境政策課長） それでは、事務局から報告等をさせていただきます。

まず、委員の出席状況についてですが、本日は、阿部委員、井上委員、小路楓委員、田原委員、塚本委員、中田委員、宮内委員から欠席のご連絡をいただいております。

現在の出席委員は12名でございまして、総委員数19名の過半数に達しておりますので、札幌市環境審議会規則第4条第3項により会議が成立していることをご報告いたします。

次に、お手元に配付しております資料の確認をさせていただきたいと思っております。

事前に紙の資料は不要とのご連絡をいただいた委員につきましては、データの確認をお願いいたします。

上から、次第、委員名簿、座席表、資料1の令和2年度版札幌市環境白書素案、資料2の札幌市気候変動対策行動計画案の本書、資料3の行動計画案の概要版でございまして。

この他に、参考資料としまして、参考資料1の札幌市環境白書に関する環境審議会での主な意見と対応、参考資料2の札幌市気候変動対策行動計画案新旧対照表、参考資料3の札幌市気候変動対策行動計画案のキッズコメントの資料、これに加えまして、後ほど、小司晶子委員から情報提供いただきます日本の気候変動2020に関する資料をお配りしております。

資料の不足等はございませんでしょうか。

最後に、本日の会議の運営に当たりまして、委員の皆様へのお願いがございます。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、今、委員の皆様のお席にはマイクを配置しておりません。ご発言の際には、挙手をお願いいたします。スタッフがスタンド式マイクをお席までお持ちいたしますので、マスク着用のまま、マイクには触れずにご発言くださるようお願いいたします。

また、使い終わったマイクは、スタッフが回収しまして、その都度、除菌して次の方にお使いいただく形といたします。

もしマイクに触れてしまった場合には、感染防止のため、机の上にあります除菌シートをご使用いただき手指を消毒くださいますよう、併せてお願いいたします。

事務局から以上でございます。

2. 議 事

○山中会長 早速ですが、議題1の令和2年度版札幌市環境白書の素案についてです。

前回の会議では、令和2年度の環境白書の構成案について、ご意見をいただいているところですので。

本件は、前回いただいたご意見等を踏まえ、事務局において素案を製作しておりますので、その素案について事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（金盛総括係長） 環境政策課の総括係長の金盛です。よろしくお願いいたします。

では、私から、令和2年度版環境白書の素案について、ご説明いたします。

令和2年度版の環境白書につきまして、前回、第5回会議において、構成案についてご議論をいただきました。このたび、関係部局からデータを集約し取りまとめたものができましたので、今回、素案として提示させていただきました。本日は、その内容について、昨年度からの変更点を中心にご説明いたします。

まず、資料1の1ページをご覧ください。

第1章の前に、特集ということで、令和元年度の世界、日本の環境に関する動向を記載しています。気候変動に関するものとしては、パリ協定に基づく日本の長期戦略の策定や、国連の気候行動サミットの開催を挙げております。

また、海洋プラスチックや生物多様性、それから、SDGs関係の話題についても、2ページに記載しております。

続きまして、札幌の環境のいまということで、札幌市の環境に関する取組について、特にここを見てほしいというものを取り上げて紹介しております。

3ページになりますけれども、まず、ゼロカーボンシティ宣言を行ったこと、それから、様々な主体の連携協働による取組ということで、気候変動ゼミ・ワークショップや、みんなで考える気候変動対策会議というものを行いましたので、その様子を記載しております。

前回の会議でも、札幌市は市民の意見を聞く場を積極的に設けていることをしっかり発信したほうがいいのではないかとというご意見をいただいておりますので、そういったことも意識して記載しております。

また、市民、民間との関わりということで、5ページに、フェアトレードタウンとして認定を受けたこと、それから、6ページに、自然災害に備えた対策の強化ということで、協定を2件締結したということがありましたので、それも大きな動きということで載せております。

昨年度、大きな話題となりましたけれども、ヒグマが市街地へ出没したという例がありましたので、それについても特集として記載をしております。

続きまして、9ページからが特集に続く本編となっております。

令和元年度版についても同じような構成で記載しているのですが、札幌が目指す将来像や5つの柱、10ページ目になりますけれども、将来像として5つの柱を少し分かりやすく記載して明確にしております。

また、SDGsと基本計画の5つの柱との関連を示した図や、12ページ、13ページにSDGsのコラムを記載しまして、SDGsとのつながりが分かるような形で掲載をいたしました。

それから、13ページの点検・評価になりますけれども、基本計画の進行管理としての環境白書の位置づけを改めて明確に書いております。

第2章は、令和元年度版とほぼ同様のつくりとなっておりますけれども、例えば、14ページをご覧くださいますと、14ページに、1 将来像の実現に向けた2030年の姿と管理指標ということで記載しております。昨年度版は1の次に3が続くような形になっていたのですが、基本計画の中で2030年の姿というものを掲げておりましたので、それに対して現状はどうなっているか、どこまで進んでいるのかというようなことを文章として記載するようにして、その後の施策の実施状況、課題と評価を今後の方向につながるような書きぶりしております。

また、第2次札幌市環境基本計画は、各分野において既にある個別計画の傘になるようなイメージということは、これまでお話しさせていただいたかと思っておりますけれども、その個別計画の進捗状況についても、どうなっているかということを中心に把握していくことが必要ということで、44ページに、関連する各個別計画の目標と評価に係る表を記載しております。この表自体は、令和元年度版の環境白書でも掲載はしておりましたが、その上に、それぞれの個別計画の状況がどうかということが分かるように文章を記載しております。

説明については以上となりますけれども、これまで審議会でもいただきました意見の概要と、その対応状況ということで、参考資料1にまとめさせていただきました。

この第11次の審議会の中で、新たな基本計画に基づく環境白書について、様々なご審議をいただきまして、改めて感謝申し上げます。おかげさまで、白書の形が固まってきたというふうに考えておりますので、今後は、特集ページをはじめ、内容をより充実するように努めていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○山中会長 ただいまの内容について、ご質問やご意見はありますか。

○石井副会長 石井でございます。よろしく願いいたします。

非常にご苦労されてつくられていて、よろしいかと思っておりますけれども、最初の特集記事のところ、今年度ではなくて来年度以降のリクエストということで、2点、こういうことがあったら内容が充実するかなという点を申し上げます。

一つは、今、環境広場でもやっておりますけれども、企業の先進的ないろいろな取組も札幌市の環境に合う重要なパートだと思っておりますので、そういったものがコラム的にでもあればいいと思います。情報収集が大変であれば、環境展の情報をうまく使ってやるなど、手間のかからないという言い方はおかしいですが、極力、効率的にできるのかなというふうに思ったのが1点です。

それから、やはり、今、環境省が言っているのは、環境という切り口で地域の経済や社会といった地域の課題を解決するというのが一つありますので、札幌市内のソーシャルサエティービジネスでも構いませんので、そのような例があるのであれば、特集に書いていただくと、いろいろな方々の関わりが広く見えるのかなという気がいたしました。

リクエストですけれども、ご検討いただければと思います。

○山中会長 他にありますか。

○遠井委員 全体的には、非常に読みやすく分かりやすい構成だなと思って拝見していました。

一つだけ、個別の問題ですが、生物多様性保全との関係で、円山動物園はコラムと環境教育のところで書かれておりましたけれども、有坂委員はご存じと思いますが、今年、条例をつくって、動物園の設置目的自体を生物多様性保全に位置づけたので、教育だけというのは狭過ぎるのではないかなと思うのです。ですから、例えば、位置づけを生物多様性保全の調査研究などと格上げをして、今後は展示による教育だけではなくて、生息域外保全と生息域内保全への寄与、さらには、調査研究を蓄積することということも動物園の目的にあることを明記をされたほうがいいのかなと思います。ですから、まだできていませんけれども、今、そちらに向かって確実に進めている状況ですので、置き換えをされたほうがいいのではないかなと思いました。

以上です。

○山中会長 これは意見ですね。

他はどうですか。

○有坂委員 すごく細かいところかもしれないですけども、5ページ目のフェアトレードタウン認定のところ、フェアトレードの説明が書かれていると思います。「フェアトレードは、開発途上国の」というふうに始まるところで、確かに今までの認識だところだと思うのですが、公平・公正な取引というのは開発途上国だけではないので、できれば表現を変えていただきたいなと思っています。今のフェアトレードというのは、地産地消も考えたり、先住民族の民芸品や工芸品も対象になっています。そうなってくると、開発途上国だけではありません。ここの認識を変えてもらいたいというのがフェアトレードタウンとしてもあるので、できればここを、「主に開発途上国など」というふうな広く捉えられるように表現を変えていただけるとありがたいなと思います。

それから、遠井委員からもありましたが、円山動物園が非常に頑張ってくさっているのです。全国でも初めて動物園条例をつくらうとしているということを、広くアピールしていただけるといいかなと思いました。

以上です。ありがとうございます。

○山中会長 他にいかがですか。

○遠井委員 生物多様性で、もう一件ありました。

今、先住民族の話がされましたけれども、札幌市はアイヌの伝統的文化継承の取組がされているのであれば、これも生物多様性保全政策と関連づけができると思いますので、ここに組み入れていただいたほうが、国際的なトレンドと整合性が取れて良いのではないかなと思いました。例えば、植物の伝統的利用に関する知識の継承であるとか、サケなどの生物資源の伝統的利用で、それに関してはいろいろ問題もあると思うのですが、こうした

問題についても、生物多様性保全との関連性も含めて環境白書に入れていただければと思います。

以上です。

○山中会長 他はいかがでしょうか。

○喜多委員 70ページのところですけれども、前回の白書ではなかった亜麻を活用した活動を入れてくださって、ありがとうございます。

そこで、団体の名前を入れていいのかが分からないですけれども、地域の中にあさぶ亜麻保存会という亜麻を守ろうという団体があるのです。ここでは「商店街、町内会等」というふうにくくられてしまっているのですが、下に「NPO法人など」と書いてあるところもあるので、もし入れられるのであれば、あさぶ亜麻保存会という名前を入れていただけたらと思いました。

○山中会長 他にご意見はありますか。

○向田委員 環境事務所の向田です。

先ほどの冒頭の石井副会長から企業の取組を入れたらというのは非常に賛成でございます。

その一つの例となるのかどうかはわかりませんが、じゅんかんコンビニ24がございませよ。私は、最近、個人的に利用したこともあって、これは先進的なものではないかなと思いました。全国的にはどうなのですか、ああいうものは多いのでしょうか。

市民の方からは大変好評と受けとめられているのではないかと思う反面、何でもボックスに入れられると勘違いされそうにも感じましたので、行政も定期的に点検をしていただく中で、よりよい取組として伸ばしていただければと思いました。

○山中会長 確かに、じゅんかんコンビニ24には注目して、かなり早い時期に北海道のグリーン・ビズ認定で優れた取組として選んだことがあるという記憶があります。

他はいかがでしょうか。

○石井副会長 今までは白書のつくりのことを議論してきたのですが、そろそろ中身の話の少しコメントしたいというふうに思います。

今の廃棄物の件で、56ページ目です。

じゅんかんコンビニ24などは民間ルートと言われているのですけれども、いろいろなお店で店舗回収が進んでいるので、56ページ目にあるように、リサイクル率は目標値から外れて、単なる指標になりました。2016年度から2019年度は25.7%と下がっていますが、これは別にリサイクル活動が廃れたわけではなくて、たまたま市が扱うリサイクル物の量が減っているだけというふうに解釈するというようなことなのです。

一方で、目標値にあるごみの排出量から、埋立て処分量、それから、食品ロス量まで、数値的に低減効果があまり見られていないような気もいたします。むしろ、増えているものも見られます。ごみを減らすという作業はすごく大変で、これは去年までのデータですが、今年のデータではコロナ禍の状況が入るため、事業系のごみと家庭系のごみの balan

スが変わりまして、さらにややこしい面もございます。このあたりの評価が三角なのか、本当は黒三角なのか、評価が微妙なところもあろうかとは思いますが、気持ちは分かりますので、この辺はしっかりと注視をしていただけたらと思います。特に、家庭から出る廃棄ごみ量が340グラム以下というのは、これはかなりチャレンジングな目標でして、400グラムを切るだけでも我々は大変大騒ぎしたというぐらいチャレンジングな値だということですので。

それから、ここには書いていませんけれども、札幌市は事業系の廃棄物についてもいろいろな対策が一生懸命行われていると思います。各ビルでの紙ごみの資源といったような取組がもっと進むように、引き続き行政でも頑張ってもらえればというふうに思います。

以上です。

○山中会長 他にはいかがでしょうか。

○有坂委員 先ほど言い忘れてしまったのですが、円山動物園が生物多様性の取組を進めているという部分で、今、道内の生物多様性の保全や、札幌市内の在来生物の保護活動を積極的にされています。その辺りを取組事例として書いていただけるといいかなと思います。ニホンザリガニやコウモリなど、円山周辺に住む生物の保護活動を市民と一緒に取り組まれており、また、北海道全体の生物多様性保全のために猛禽類の野生復帰の活動もされています。非常に重要なポイントだと思うので、ぜひそこは追加で書いていただければと思いました。

○山中会長 他にはいかがでしょうか。

○遠井委員 先ほど、じゅんかんコンビニ24など優れた取組をしている事業者もどうだとありましたが、ごみを出さないための様々な取組をしている企業もあると思います。そもそも、ごみにならないような活動の促進の指標を例示をしていただくのもいいのかなと思いました。

日本の企業ではありませんが、今、話題となっているLoopのように、ワンウェイ容器包装を使わないで、中身を顧客が使った後は容器を戻していくという方法で、いずれはアマゾンに置き換わるのではないかと期待を集めているビジネスもあります。ですから、どうやって処分するか以前に、ごみを出さないサプライチェーンをつくっていくことについて、もっと踏み込んで一例示すれば一市民や事業者に対するシグナルにはなるのではないかと思います。

以上です。

○山中会長 やはり特集のところできて、札幌がどこに注目しているかということが分かるので、分かりやすくいいのではないかと思います。

かなり簡単に書いてありますので読みやすいと言えば読みやすいですが、これについて、どこのところに対応するのみたいなことがつくと、本編と、ここに出したことがつながるのではないかと思います。ですから、ここに、どこどこを見ましようとか、どれに関連していますみたいなものがあるといいかなと思います。

これは、どうしても発行されるのが1年近く遅れるので、そういう意味では、例えば、コロナはどうなったのだと思うと、そうか、去年3月までではまだまだだったかと考えたりするのです。ただ、次の半年には、我々にとってコロナが生活というか、頭の中に一番あるから、そういう意味では、コメントをあえて分けてもいいと思うので、少しフライングでも、これから次の半年ぐらいの間はこんな感じになるのではないかみたいなことがあったほうがいいかもしれません。ご検討ください。

他はいかがでしょうか。

○大沼委員 大沼です。

白書としては、非常に読みやすい、いいものができたと思っています。

白書中身そのものではないですが、言いたいことがありますして、今日の審議会では、多分、ここでしか発言できないと思うので、発言いたします。

それは、プラスチック複合問題で、今後どうしていくのかというふうな位置づけがかなり悩ましくなるだろうなと思っています。今回の白書では、資源循環戦略と大阪サミットの海洋ごみあるいはマイクロプラが別立てで話されているけれども、これは本来的には全部統合的にプラスチック複合問題として取り上げなければいけません。もちろん、資源循環、特に減量もそうですが、温暖化対策、気候変動にも踏み込み、さらに、生態系破壊にもなる話というところで、例えば、今の札幌の基本計画では5つの柱として分かれてしまっているのだけれども、計画レベルであれば、温暖化対策であったり、廃棄物処理基本計画、生物多様性のプランというふうに分かれてしまっているのです。それぞれに分かれてしまっては全体が見えなくなる問題というのをどう位置づけて、今後、先進的にこういった問題を取り上げていくのかなというののがかなり悩ましい課題として大きくあるなと考えております。これはすぐに答えが出るものではないと思うのですが、計画は縦割りではできないこと、個別に分解してはできない扱いを今後注意して議論できたらなと願っております。

以上です。

○山中会長 いい視点をありがとうございます。

確かに、そういうところはなかなか議論ができないので、こういう場で議論したり、さっきは特集を利用しながら説明していただきましたけれども、どことちゃんとひもづいているのだみたいなところから全体図を見せるような議論で、どうしても後ろ側は個別でやらないといけなくて、しっかりとしないといけないから、今ある問題はこういう個別の形で捉えられる、もしくは、個別のモデルからアップして全体としてはこういう方向があるというようなことも白書に書くと同時に、大沼委員がおっしゃるのは、多分、白書だけの問題ではなくて、全体としてこれから扱っていくということだと思います。

○荒木委員 荒木です。

特集の中に載せるということの視点で言えば、もう一つ、やはり健康に関することがあまり書かれていないので、環境をよくすることによって、健康増進につながるというよう

なことが入っているといいのかなと思いました。

その中で、私も中を見ていましたら、札幌市は、受動喫煙防止宣言をちょうど令和2年に表明していることもありますので、そういったようなことを少し触れていただくと、やはり環境を守る、環境をよくすることが私たちの健康にもつながるといことが読者に伝わっていくかなと思います。

以上です。

○山中会長 他にございませんか。

○有坂委員 今のお話に関連して、それぞれの取組にSDGsの何番に当たりますと書いてあると思うのですが、どのマークをつけるかが非常に難しいところだなと思いつつ、例えば、34ページの積雪寒冷地に適した低炭素社会の実現は、まさに、今、荒木委員がおっしゃっていたような健康とすごく関わりのあることだと思っています。そうなってくると、ゴール3も要るだろうと思います。考え出すと、きりがありません。

ただ、多分、この後、議論される気候変動対策行動計画のところでも、気候変動対策に関わることとして、健康について結構書き込まれているので、ここにゴール3が入っていてもそんなに違和感がないというか、入れていただくといいかなと思っています。他にも同じことが言えるかもしれないのですが、やはり自分の暮らしに関わっていると思っただけのためには、他のところと比べて特に気候変動ではゴール3を入れることを検討していただければと思います。

以上です。

○山中会長 他にございませんか。

○荒木委員 有坂委員に感謝いたします。というのは、このところは、住宅の省エネルギーの話が入っているのですが、住宅の話は、まさにシックビルディング症候群も含めて、人々の健康と直結するところですので、ここはやはり住まいに関連して3番が入っているといいかなと思います。

○山中会長 他にございませんか。

○遠井委員 たびたび申し訳ありません。

私は、少し戻りまして、今の大沼委員のご指摘との関連ですけれども、例えば、(製品の)ライフサイクル全体のアセスメントを行って環境負荷を限りなくゼロにするとか、(H.デイリーの)「強い持続可能性」を重視し、サステナビリティに関しては、(環境収容力に)上限があるという風に厳格に捉えるという考え方を冒頭に入れて、あらゆる施策・事業は限界を見極めながらやっていきたいと思いますという方針を掲げるのも、統合性を確保する方法かなと思いました。

もう一つは、今の有坂委員や荒木委員のご指摘と重なると思いますが、SDGsと気候変動の関係については、SDGsを達成するという目的のために気候変動も重要と書いてあるのですが、気候変動の対策をするときにSDGsの他の項目も考慮しなければいけないともいえるわけです。だから、気候変動に関しても、全体的な方針をどうするか

ということがあって、特にSDGsの考え方や、公平性、様々な格差の是正といった倫理的問題も含めて対応しなければならないのであれば、両面あるということも書いてあったほうがいいのかと思いました。つまり、SDGsのための気候変動対策というだけではなく、気候変動対策をするときにSDGsを参照して、その個別目標を損なわない、例えば、生物多様性を損なわない、貧困削減に寄与するような形で気候変動対策をする等の位置づけを全体的な方針として立てて、それに整合的な形で個別の施策をやっていきます、という方針を明確にしたほうが良いのではないかと思います。

以上です。

○山中会長 確かに、こういう特集のところではSDGsの間のコベネフィットとトレードオフというのは、今一番注目されている場所の一つですから、そういう意味では、SDGsのコベネフィットとトレードオフみたいなのがあるということは、当然ながら札幌市の施策同士にもそういう関係があると。そういうことは個別のところには書きづらいので、全体として、あるいは、書くだけではなくて、我々はこういう注意をしているのだということも明記する、それを意識するような施策の打ち方、方針をつくらなければいけないという議論を進めましょうということにつながるのだらうと思います。

では、こういうことに気づいた、忘れていたということが何かあるようでしたら、直接、事務局のほうにインプットしてください。

事務局には、本日の議論等を踏まえ、完成に向けて作業を進めていただくよう、お願いいたします。

次の議題に移ります。

今期の審議会が一番議論をしてきた札幌市気候変動対策行動計画案についてです。

前回、7月の会議では、事務局から示された計画案に対して、審議会として各委員の皆様からご意見をいただきました。

その後、事務局では、審議会の意見を踏まえ、市役所庁内の検討を行い、計画の最終案を取りまとめて、昨年12月に市議会の報告の上、現在、パブリックコメントを実施しているということになります。

今日は、この計画の最終案について、事務局から報告していただきたいと思います。

それでは、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（山西気候変動対策担当係長） 気候変動対策担当係長の山西です。よろしくお願いいたします。

今、山中会長からご説明いただきましたとおり、7月の環境審議会の後に、札幌市役所内で議論を進め、その後、市議会報告を行い、現在、パブリックコメントを1月20日まで実施しているところです。

パブリックコメント終了後、いただいた意見を踏まえて修正等を行い、3月末までには札幌市の計画として完成させ、来年度以降、その計画に基づいて取組を進めていくといった流れとなっています。

資料2と資料3については、大人を対象としたパブリックコメントの資料となっています。

参考資料3については、小・中学生向けに行っているキッズコメント資料となっています。本書の趣旨を損なわない範囲で、子どもたちに分かりやすく説明し、意見をいただく資料となっています。

参考資料2については、左側が今年の7月時点で皆さんにご覧いただきました計画案、右側が本日時点の計画案ということで、修正箇所を新旧対照表として示しています。

一番右側に、庁内や環境審議会からの意見など、どなたからご意見をいただいて修正したかを示しています。

全てのご説明をするのは非常に時間がかかってしまいますので、本日は、環境審議会の皆さんからいただいた意見を踏まえて修正した主な箇所を、資料2を見ながらご説明させていただきます。

では、主な修正点について、まず、資料2の14ページをご覧ください。

(2)「パリ協定」の採択・発効ということで、パリ協定では、先進国、途上国の義務の差異化、違いがあることが認められているため、そのことが分かる表現としてはどうかというご意見がありました。

また、今回の計画の策定に当たっては、国立環境研究所にも科学的知見等で認識の間違いが無いかということ相談しながら進めていきましたが、パリ協定で言われている実質ゼロは、人間活動による排出量イコール自然の吸収量ということではなく、人間活動による排出量イコール人間活動による吸収量ということでしたので、そのことを踏まえて、(2)「パリ協定」の採択・発効の文章を修正しています。

1ページめくっていただきまして、IPCC「1.5℃特別報告書」の公表の項目ですが、1.5℃特別報告書においては、2度よりも1.5度の目標のほうが望ましいことが示されたという点を読みづらいのではないかとご意見を踏まえて、文言の修正を行っています。

少しめくっていただきまして、31ページをご覧ください。

こちらが環境審議会の中でもいろいろなご意見をいただいた部分ではありますが、化石燃料も実質ゼロということで、少しは排出してもいい、少しなら化石燃料は使ってもいいということを入れてはどうかという意見がありました。

また、吸収分を増やすこと、森林吸収分を増やすことも、取組としては大切ではないかということが分かるようにしてはどうかという意見がありました。

33ページを開いていただきたいのですが、今年の7月時点では、図5-3しか載せていなかったのですが、これだと吸収分が分かりづらいところがありましたので、31ページにあるように、図5-1を追加することで、より分かりやすく修正をしています。

続きまして、35ページをご覧ください。

5.4.3、2050年を見据えた対策ということで、耐久資材の買換えのときに省エ

エネルギー機器や再生可能エネルギー設備等の選択が重要となることが分かるようにしてはどうかというご意見がありましたので、記載を追記しています。

次に、44ページをご覧ください。

こちらは、(2) 主な取組の建築物等への再生可能エネルギー導入の推進の中の一歩下、環境負荷の少ない電力供給の選択ということで、当初の案ではCO₂排出係数等の情報発信について検討しますと記載していましたが、再生可能エネルギー比率の情報についても入れてはどうかというご意見がありましたので、そちらを追加しています。

少しめくっていただきまして、61ページをご覧ください。

こちらは、札幌市役所においても、市民、事業者に率先して再生可能エネルギー100%の電力を入れていくような取組をしてはどうかという意見がありましたので、[再エネ] 再生可能エネルギー導入拡大の取組として、市有施設「RE100化モデル事業」の検討と、環境に配慮した電力契約の検討ということで、単純な金額だけではなく、環境に配慮した電気を契約していくという視点を持って入札を行っていくことの検討も加えています。

以上が主な変更点ですが、札幌市役所内部の意見として出てきたもので大きく変更したものが一つあります。

64ページと65ページをご覧ください。昨年7月時点では、札幌市役所についての成果指標は設けておらず、こういった取組を行いますという記載のみでしたが、札幌市役所が率先して取組をしていくためには、成果指標を定めて、それに基づいて、市役所全体としてやっていきたいと思いますという議論がありまして、市役所編についても新たに成果指標を設定しています。

以上、主な変更点です。

補足ですが、国でも昨年10月に菅内閣総理大臣が2050年脱炭素社会の実現を目指す、いわゆるカーボンニュートラル宣言を行っています。

札幌市においては、昨年2月に、札幌市長がゼロカーボンシティ宣言を行っているため、2050年の実質ゼロという方向性は国と一致していると考えています。

以上、ご報告とさせていただきます。

○山中会長 事務局から計画の最終案について報告がありました。

来年度からこの計画に基づいて施策や取組を進めていく上で、留意点、また、この計画についてご意見を伺えればと思います。

○大沼委員 いろいろ工夫してくださって、ありがとうございます。

私は、前回、欠席してしまって申し訳なかったのですがけれども、少なくとも誰が何をやる、何のために何を目標してやるというところまではすごくクリアになって、いいなと思って読んでおりました。

ただし、市がやりますという部分については特にいいのですがけれども、市民や事業者が、いろいろなステークホルダーがというときに、そういった人たちをどうやって巻き込んでいくのですかという戦略がどこにも書かれていません。一応、進行管理というの

が第9章にあるのですけれども、これはどのぐらいできていますかというのをチェックするだけであって、できたにせよ、できないにせよ、どうやっていろいろな主体を巻き込むことに成功したのか、あるいは、成功しなかったのか、これだと明らかになるような仕組みになっていないというのが大きな懸念としてあります。

もう一回、繰り返すと、いろいろな主体をどうやって巻き込むのか、どうやって背中を押すのかというストラテジーの部分で、何か足せるものが少しでもあればいいなと思っております。

以上です。

○山中会長 今の点について、事務局から何かありますか。

○事務局（山西気候変動対策担当係長） 大沼委員のおっしゃるとおり、やはり気候変動対策は、札幌市がやらなければいけないことも当然ありますが、市民、事業者をどう巻き込んでいくか、当然、関心のある方から関心の少ない方までいらっしゃいますので、どういうふうに巻き込んでいくかというのは非常に大切なところと思っています。

具体的な取組としては、54ページをご覧ください。

この計画の中になかなか記載ができていない部分があるというご指摘でしたが、ライフスタイルの変革の取組として、持続可能な未来に向けた人材育成と記載をしています。いろいろな世代の方たちとワークショップや出前講座などで考えて対話する機会を創出していく、単純な普及啓発ではなく、自分ごととして捉えてもらえるような機会をつくっていくことで巻き込んでいきたいと考えています。

これに加え、事業者の方には、いろいろな施策をしていく中で情報を伝えていければと考えています。

○山中会長 他にございませんか。

○石井副会長 私も、大沼委員の言うことは、書ければ書いたほうが良いと思うのですが、ここに書き切れなければ、また検討していけばいいと考えております。

具体的に、2030年、2050年の脱炭素、ゼロカーボンシティにどう向かっていくか、あるいは、もう少し大きな視点で言えば、地域循環共生圏というものにどう向かっていくかですが、僕のアイデアは、どういうふうに取り組んでいくのかというストラテジーの部分ですから、なかなか簡単にはいかないかもしれませんが、やはりいろいろなところで事業を起こしていくということです。単に市民がライフスタイルを変えて協力しますではなくて、例えば、小さな買物を地域のコミュニティーが車で手助けするなど、小さな事業あるいはビジネスがあっちこちでいろいろ生まれていくようなものを想像しています。

ただ、その場合、市民に対して事業を後押しするようなサポートが必要になってまいります。それを市が一々やっていきますかというのと、下川町やニセコ町といった小さい町であれば、すぐ、まちづくり何とかといって行政と民間が協力して、えいとできるのですけれども、札幌市のように大きくなってしまうと、小さな町でできることがなかなかできない

くなりますよね。やはり、そういうところで工夫が必要かなと思います。

僕の一つのアイデアとしては、せっきやく区という単位があるのですから、区ごとに一つずつ何かプラットフォームをつくって、そこがいろいろな小さなビジネス、小さな事業の面倒を見るということです。大都市だけれども、区ごとに二、三十万人ずつ分けていけば、そういう小さな町がやっているようなことでも何かできるのではないか、札幌市ならではというようなものがこれからいろいろできると面白いのかなというふうに思っていました。

○山中会長 とてもいいアイデアですね。

他にございませんか。

○遠井委員 今のお二人のご指摘と重なるかもしれませんが、全体的に当たりさわりのない、誰にも文句を言われぬような記述になっているので、逆に言うと、ひっかかりがない、という印象を受けました。

2030年、2050年目標を立てて、バックキャストでやっていくということであれば、明確に、踏み込んだ具体的で野心的な目標を書いてはいかがでしょうか。今は到底無理とみえる目標であっても、例えば、電気自動車シェアは80%を目指す、プラスチックは全廃するなど宣言することで、そのシグナルを受けて、事業者であれ、市民であれ、行動できると思うのです。

それから、そこまで書いてしまうと達成できないのではないかと、という心配もあるかもしれませんが、こうした長期的な施策については、順応的管理をしていけばよいという指摘もございます。今の時点では、2030年、2050年目標はEV導入が80%だけれども、そのうち、諸般の事情によって、EVではなくて、別の技術に変えていくとか、その割合を変えていくというふうな、定期的な見直しの中で目的を柔軟に変えていくことはありだと思います。目標を曖昧に書くと、社会にシグナルが伝わらない、目的達成しているかどうかという評価もできない、達成できなくても逃げ道ができてしまうという二つの点で問題があると思いますので、もう少し踏み込んだ形で目標設定なり個別の施策を書いていたほうがいいのかと思いました。

それから、個別の問題ですけれども、戸建てに関してはZEHなど、いろいろなものがある分かりますが、賃貸物件の省エネ性能をどうやって評価して、借り手がそれを選択できるのかは分かりません。例えば、建築の熱効率については、表示義務をつくるなどの仕掛けもつくと、目標達成のための工夫を引き出すことができないのではないかと感じました。

もう一つ、キッズコメントは、子どもの意見表明権にも適合するため、非常に面白い試みだなと思って見ました。

ただ、あなた方の世代が一番の当事者ですよ、というメッセージを冒頭でもう少し強調してもよかったですのかなと思います。何となく子どもの意見も聞いてみました、というのではなくて、むしろ、子ども世代にとって、気候変動はより切実な問題になっているはずで

すから、そういう「世代の問題」という捉え方が子どもたちにも伝わるように書いていただきたいと思います。

もう一点、削減目標や吸収源を区域、市域、それから、国単位でやると、どうして抜けてしまう問題というのがあると思うのです。例えば、吸収源に関しては、札幌市域の森林保全をどうするかということよりも、むしろ先進国の消費者として、その消費行動とか、様々なサプライチェーンがアマゾンなどの伐採につながっていたり、アブラヤシのプランテーションにつながっているという問題があるわけです。グローバルなインパクトで見たら、そこをどう変えるかということがより重要だと思うのです。そういうことも意識をして、他国の環境に悪影響を与えないようサプライチェーン全体の見直しをしていく、ということも入れて頂く必要があるのではないかと思います。

ただ、このような問題は、国や自治体の削減目標には反映できないため、何となく倫理的課題みたいに格下げされてしまうのですが、実際のグローバルインパクトで見たら、はるかに大きいと思いますので、その辺の書き分けを注意して、強調していただければいいのではないかと思います。

長くなりましたが、以上です。

○山中会長 札幌市は、当然、消費のほうが多い場所ですから、道内に対しても責任があるし、世界に対しても責任があります。施策的になかなか書きづらいのですが、やはりそういうことがあるということは意識したほうがいいと思うので、これから、そういう面を強調すると。フェアトレードタウンというのも人権だけではありませんし、CO₂もまさに環境破壊という意味で入っていますから、そういうところを考えたらいいですね。

他にございませんか。

○田部委員 北大の田部です。

今のご意見の前半の部分で、私がこれを言うのは3回目だと思うのですが、33ページの図5-3のところ、図5-1と分けて分かりやすくしていただいたということで、ありがとうございます。

それで、図5-1を見ると、化石燃料をこれだけ減らさなければいけないのだと危機感是非常に伝わってくるのですが、一方で、図5-3が恐らく前とあまり変わっていないのです。

初めに、質問ですが、あくまでイメージですが、現在の市内、道内の再エネで賄う量というのはどうやって書かれているのですか。これを言うのは3回目ですが、現状に全く対応していないと思うのです。

○事務局（山西気候変動対策担当係長） 田部委員からご意見いただいて、こちらでも検討してまいりました。

実際に、市内のエネルギー消費としては、電気以外に灯油などいろいろなものがありますが、再生可能エネルギーの割合としては、2016年時点で、大体6%ぐらいとなっています。それをより現実に近い形で表現しようと思ったときに、どうしても、図が分かり

にくくなってしまうというところがありまして、より現実に近いほうに寄せたいとは考えていたのですが、分かりやすさを優先させていただきました。

○田部委員 見やすさを優先されるのはいいのですが、やはり実際と大分違うので、間違ったメッセージになるということを申し上げます。結局、CO₂削減は全然達成されていないですね。先ほどの環境白書でも、むしろ増えていて、この延長で行っても、恐らく目標達成は無理だろうなというふうに見ていたのです。正直に申し上げて、現状はそういう状況だと思うのです。

そういう意味では、図5-1を見ると、化石燃料もほぼゼロにするのは難しいなという現実を受け止められると思うのですけれども、一方で、図5-3を見ると、これが今使っている再エネを2倍から3倍の間にすれば2050年の目標達成できるというメッセージになると、非常にいただけないのではないのかなという意見です。

やはり、現状はCO₂削減が全く達成できていなくて、この延長で行っても全く駄目だということを市民の皆様をしっかり受け止めていただかないと、同じ危機感が共有できないのではないかというふうに思います。これだと、今のおり進めていけば達成できるのかなという錯覚に陥ってしまうのではないかと、私は、それをずっと懸念しているのです。そういう意味で、分かりやすさというよりも、その危機感をしっかり表すような図にしたいということを重ねてお願いいたします。

以上です。

○山中会長 とても重要な意味ですよ。

グラフや図というのは何か意味があるデータに基づいていると思込むので、その辺りは僕もあまり気づいていないところでしたが、ご指摘がありましたから、ぜひとも検討していただきたいと思います。

他はいかがですか。

○喜多委員 さっきの石井副会長の小さな起業が市民の中から主体的にたくさん発生して行っていくのを後押しするというのがすごくいいなと思っています。環境の保全をテーマにすると、子どもからお年寄りまで市民が集いやすいというのがあるので、ぜひとも、まちづくりの部局など、いろいろなところと連携しながらやってほしいというふうに思いました。

それと、小学生、中学生向けのキッズコメントを募集していますが、これは子どもの意見を本編に入れるのか、それとも、子ども向けの行動計画というのを別につくるのか、教えてほしいと思います。子ども向けができたらいいなと思っていたのです。

○事務局（山西気候変動対策担当係長） キッズコメントについては、大人向けのパブリックコメント資料では子どもたちにはなかなか伝わりにくいので、キッズコメントという形で意見募集をしています。子どもたちの意見に対しては、札幌市の考え方を示すとともに、内容によって本編に反映したほうが良いという意見があれば、それを反映していくという形になると思います。

○喜多委員 分かりました。

○山中会長 他はいかがでしょうか。

○向田委員 先ほどご説明いただいた61ページのところですけれども、新たに加えたということで、環境に配慮した電力契約の検討や、市有施設「RE100化モデル事業」の検討というのがございました。環境省でもこうした取組を計画を立てて進めておりますが、最近、計画を1年前倒しすることとして、環境省直轄の施設については、来年からRE100の契約を進めることになりました。

資料では「検討」と書いていますが、実際問題として、道内にRE100を販売してくれる業者がないというのが問題になっているのだらうと思いました。ただ、これは2030年に向けての目標（計画）なわけですから、市としては「検討」とどまらず、これを進めるという意志を明確にさせていただき、逆に、道内でRE100を販売する業者を本州から呼び込んでほしいのです。

もう一点は、公用車の次世代自動車への切り替えですが、環境省では来年度から新しく調達するものは次世代自動車にするというふうに決められました。さらに、再来年度からは官用車は新たに調達せずにリースに切り替えようということになっています。

国としても、温暖化対策は今後5年間の取組が非常に大切だということで、いろいろな計画を前倒しして取り組んでいるというのが現状でございますので、ぜひ市としても積極的に取り組んでいただくとありがたいと考えました。

○山中会長 多分、行動計画としてはこれで固まったと思うのですが、これから本当にこれに沿って魂を入れるのは来年度からですから、そこで今回出た様々なご意見、また、私は、札幌市だけではなくて、その周辺も含めた行動計画、一緒の行動計画でいいと思うので、ぜひともそういうものを目指してほしいと思います。

他はいかがでしょうか。

○遠井委員 細かい話で申し訳ないですが、交通の件で、公用車に関しては次世代自動車の切替えというのが上がっているのですけれども、公共交通機関というのは次世代型や電気型に転換するというご予定は入れないのでしょうか。たしか、最初の検討でそういう議論があったかなと思うのですけれども。実際には、札幌市のバスではなくて民間事業者ですから、直ちにやりますということとはできないのかもしれませんが、ただ、公共性が高いという点と社会に対する的確なメッセージとなる、ということもありますので、例えば、ごみの収集車やバス、タクシーについては、補助をつける等により、次世代型に切替えを促進するということを入れていただくと良いのではないかと、個人の自家用車の切替えよりも、公共性の高いセクターの切り替えを先に進めていくというのもありではないかと思いました。

以上です。

○山中会長 他にございませんか。

○荒木委員 非常に細かいことになって恐縮ですが、先ほどの白書でも有坂委員が指摘し

たように、どのSDGsがどの項目に関係するかというのは非常に難しく、考えていけば、もう全部入れたくなってしまうけれども、そもいかないということの中で、非常に検討されたのかなと思うのです。

例えば、51ページの資源の問題であれば、プラスチックの問題や緑の創出となってくると、やはり健康のことに直結してくるのかなと思うので、3番も欲しいかなと思うのです。

そして、これは有坂委員が専門かと思えますけれども、フェアトレードとなってくると、やはり貧困をなくそうが外せないのかなとかと思ったりもします。最終的にどれを入れるかは、いろいろご検討されて決まるのかなと思えますけれども、気づいた点として指摘させていただきました。

○山中会長 他にございませんか。

○有坂委員 幾つかあるのですが、最初の市民の巻き込みの部分で、こんな活動、取組をしましょうという話は、重要ではあると思います。一方、市民の人たちが札幌市民としてどうしていきたいのか、気候変動に対して何が必要なのかというのは、政策に関わることで大分意識が変わってくるのではないかと考えています。

札幌市では、他の自治体よりも、いろいろなワークショップをすごく丁寧にやられている印象を持っています。ただ、そういった場に来られる人たちは、そもそも関心があって、意識があるからこそ、参加されるのだと思います。大半の人は、意識していないとは言わないですけれども、そういうものが開かれても参加しようと思えるまではいかないと思うのです。

今、札幌市や北大、全国の大学の研究者、国立環境研究所の方と一緒に、今回の札幌市で策定中の気候変動対策行動計画を基にしながら2050年の札幌について考える「気候市民会議」というのをやらせていただいています。その手法として、無作為抽出という手法を取っています。意識ある、なしではなく、「一般市民」をどう定義したらいいのか分かりませんが、札幌市の縮図となるように、普段は参加しないような人の意見を聞く、情報提供をしたうえで一緒に考えることによって、どういった未来図を描くのかということを実践してみました。このような仕組みがあると、札幌市民として考えさせられるというか、政策などにより能動的に関わり、自分ごとになりやすいのではないかと考えています。

直接、話した内容を政策に結びつけるというのはハードル高いかなと思いつつ、例えば、さっきの札幌市ではなくて南区や中央区のビジョンを実際に考えてみて、それを区レベルでやるみたいな話でもいいと思うのです。なるべく政策に関わる、自分たちが出した意見が本当に市あるいは区が活用する、実際に動くという場をつくっていただけるといいかなと、今回、気候市民会議をやってみて、とても強く再認識したところです。ぜひそういったことも検討していただければなと思いました。

また、フェアトレードの説明のところ、先ほどお伝えしたように、幅広く捉えられる表現に変えていただければということと、適応策のことが書かれている章について気にな

っています。気候変動対策というときには、緩和策と適応策と大きく二つに分かれると思うのですが、なぜ適応策だけ章立てされているのでしょうか。理由が多分あると思うので、説明があるといいかなと思いました。札幌市としては緩和策より適応策に力を入れるという意味なののでしょうか。そもそも気候変動対策には緩和策と適応策があるみたいな説明があると、気候変動への理解にもつながるかなと思いました。

さらに、適応策に関連して、災害のお話が出てきているのですが、災害弱者や、気候変動対策を進める上で経済的に弱い立場の人たちへの対策、対応で、札幌市として何か考えていることがあれば、書いていただきたいと思ったのです。前にも言ったかもしれないのですが、例えば、イギリスでは「燃料貧困」という言葉があります。燃料代を我慢して寒い部屋に住むことによって健康を害するみたいな話は荒木委員からもあったと思うのですが、そういうことがないようにフォローするという話があれば、書かれているといいかなと思います。適応策の話で、熱中症の話は書いてあるのだけれども、冬場に今みたいな話になり得ることは、札幌というか、北国ならではの問題としてあるかと思うので、夏場の話だけではなくて、冬場の話を適応策の部分に入れていただけるといいかなと思いました。

以上です。

○山中会長 他はいかがでしょうか。

○遠井委員 一つコメントとしては、全体のどこの位置づけかが分からないのですけれども、移行するときにはプラスの事業をやっていたらこういうこともできるよという明るい展望が必要ですがけれども、どうしても格差が出たりとか、貧困の問題も出てきますよというように何らかの負の影響も出るわけです。そうした社会的費用を誰にどういうふうに配分していきますかという話をどこかで読み取れないと、いいことばかり言っているのかみたいに見えてしまって、あまり現実味がないなというふうに取り残されてしまうのではないかなと思いました。

2点目は、お願いで、今この時間がどれくらいあるかは分かりませんが、気候市民会議は非常に面白そうで、私もホームページで動画を幾つか拝見させていただきました。札幌市としてどういうふうを受け止めたのか、簡単に報告をいただくとありがたいと思うのですが、お時間はあるのでしょうか。

○山中会長 あまりないですが、一言だけならいいです。

○遠井委員 やはり、移行期をどうしていくのかというのは、新たに社会契約を結び直すというのに等しいぐらい社会が激変することですから、それをどうやって民主的に進めていくかというのは良く考えなければいけないことですよね。その一つの方法として、くじ引き民主主義的なやり方というのは有望だと思うので、それをやってみてどういう所感を得たか、感触だったかを市側からもご報告いただきたいと思いました。

○山中会長 あれは協力ですが、一言、報告、コメント等がありますか。

○事務局（菅原環境都市推進部長） 環境都市推進部長の菅原です。

気候市民会議については、これから、まとめた結果を市に報告いただくというふうにお聞きしております。ですから、そういった取組の結果をお聞きした上で、コメントしたほうがいいのかと思っております。

位置づけとしては、今、有坂委員からお話ししていただいたように、環境に興味を持っている人が集まって意見をまとめるということではなくて、無作為抽出で、その自治体の構成に合わせたいろいろな方が集まったときにどうなるのだろうということは、私たちも非常に興味があるところだったのです。今月末にお話を聞けるということですから、楽しみにしているところです。

○山中会長 他にございませんか。

○有坂委員 補足です。

4回会議を実施したのですが、札幌市から毎回来ていただいて、市の施策を説明していただくなど、非常に協力していただきました。全国各地で研究されている人たちが本当にびっくりするぐらい協力していただきました。

RCEと札幌市は同じ協力機関ということで、これは研究者の人たちが主体でやっているのですけれども、この関係を続けていけたらいいなと思っています。札幌市自体は、協力的でありがたかったです。

私たちからも、ありがとうございます。

○山中会長 他にございませんか。

○大沼委員 ワークショップ、特に無作為抽出で市が選ぶというやり方がすごく大事だし、有効であるというのはおっしゃるとおりで、札幌市でも環境基本計画をつくるときに、3回にわたって無作為抽出で選ばれた市民の方に議論して計画づくりしまして、これも世界に誇っていいことだと思っています。

ただし、行動計画、行動を変える、ライフスタイルを変えるという点では、正直言うと、それだけでは十分ではないということも認識していただきたいと思います。

それから、ワークショップは、無作為で選んで動機づけはするけれども、しょせん、意識の高い人が来て、さらにその人が動機づけされる場にしかならないということは自覚したほうが良いとは思いますが。

やはり、動機づけしてから本当に行動が変わるまでというのがすごく大変だということと、行動を広めるというのがまた別の枠としてすごく難しいことなのです。行動計画では、あくまでも行動に着目するわけですから、行動を広めるということの具体策に踏み込もうとすると、最初に石井副会長におっしゃっていただいたように、地域のコミュニティーレベルに下りていって、個別・具体的な働きかけの支援、議論するのも大事だけれども、手足を動かすというところに直接踏み込まないと行動が変わらないということも同時に自覚する必要があるかなと思います。

○山中会長 今ここでの議論は、気候変動対策に限った話ではあるのですが、この手法自体をいろいろと話す場合には、市民の人は、気候変動だけではなくて、札幌市の様々な問

題、施策について議論をしたいと思う人がむしろ多かったように思われます。そういうふうなことで、先ほど石井副会長が言いましたけれども、やはり区ごとに札幌全体の重要な課題として温暖化の対策の問題を捉え、そして、話し合う仕組みが必要だと思えます。

今回は、有坂委員というか、研究者の方々にやっていただいて、僕も協力しましたけれども、新しい試みで、環境審議会とパブリックコメントのような仕組みの第3の方向ではあるのですが、すぐさま実際に組み込むには、まだまだいろいろと検討していかないといけない問題だなと思いました。

○田部委員 先ほどの意見と趣旨は同じですが、確かに間違っことは書いていないのですけれども、何となく結構できているように見せたい雰囲気が伝わってきて、今の危機感が伝わらないのではないかと思います。

多分、全体的に深く読むといろいろあると思うのですけれども、例えば、46ページ目の成果指標のところ、6割が電気自動車、燃料電池自動車などの次世代自動車と、これ自体は目標なのでいいのですが、下の図を見ると、結構伸びてきているね、達成できそうだねと思うのです。それはそうなのですけれども、ほとんどハイブリッドですよ。下の説明を見るとわかりますけれども、何で上のどこかにハイブリッドと書かないのかなど。ハイブリッドは6割行くかもしれないですが、最終的な2050年のCO₂削減にはそこまで寄与しないと思うのです。この延長でいくと、自家用車部門は大丈夫と間違っメッセージになるのではないかと思いますので、その辺は、全体的に何か誤解を招かないように表現していただきたいと思えます。

ここで言うと、上のところにもハイブリッドと書いていただきたいということです。含んではいけないということ言っているわけではありません。

○事務局（山西気候変動対策担当係長） 46ページの図6-5については、ハイブリッド自動車も含んだもので、少なくとも2030年までの今後10年間については、ハイブリッド自動車も含めた二酸化炭素の削減量として見込めると考えています。

田部委員がおっしゃったように、2050年に向けては、やはりハイブリッド自動車は化石燃料を使うものですので、それは電気自動車や燃料電池自動車に変えていって、そのエネルギー源を再生可能エネルギーに変えていかなければなりません。その辺は、2050年を見据えて、電気自動車、燃料電池自動車を今後どう増やしていくかが課題になると考えています。

○田部委員 そうではなくて、今申し上げたのは、成果指標の上の四角のところ、約6割がハイブリッドと書いていただきたいと。そういう目標ですよ。

○事務局（山西気候変動対策担当係長） 失礼いたしました。

一番上の成果指標で、例示として電気自動車、燃料電池自動車などしか書いていないというところが誤解を生むのではないかと思います。

○田部委員 本当の次世代自動車の普及が進んでいるように誤解を与えたいと思えます。

○山中会長 専門家の方々や、ここをちゃんと分かっている方々は十分分かっていると思

うのですけれども、そうでない方に誤解を与えないように、できる範囲内で誤解を与えないような表現が必要ではないかということです。ハイブリッドの話になると、世の中がすごい勢いで変わっているから、施策が追いつかないうちに、確かにハイブリッドというのが2050年にはむしろ要らなくなるというか、やめたほうがいい車に変わるということに危惧されているので、そういうところの誤解が起こらないように、書き方としては、2030年のためではなくて、2050年に向けた2030年としたほうがいいというご意見ですね。

○山中会長 では、白書とともに、来年度からの政策や取組についてのご意見をいただけたと思います。今後、委員からいただいた意見を参考にして取組をしていただきたいと思います。

その他はありますけれども、議事としてはほぼ終わったと思っておりますが、それでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○山中会長 なにもなければ、時間的には少し押し始めているので、これで本日の議事は全て終了とします。

続いて、小司委員から情報提供があります。

小司委員、お願いいたします。

○小司委員 札幌管区気象台の小司です。

お時間も押しているところですが、情報提供ということで、一つだけお話をさせていただきたいと思います。

日頃、気象台として意見を挟めるようなところはあまりないかと思っておとなしくしているのですけれども、昨年12月4日に、日本の気候変動2020という気候変動に関する情報資料が公表されましたので、そのお知らせでございます。

タイミングとしては、札幌市の行動計画に間に合わなくて申し訳なかったなというふうに思うのですけれども、日本の気候変動についての基礎資料みたいなものが刷新されて発表されたということになります。

内容としては、気象庁だけではなくて、文部科学省と共同で作成された資料になりまして、日本の気候変動2020の情報のポイントといたしましては、観測された事実と将来予測の二本立てで、各要素について書かれております。

この将来予測ですが、これまで気象庁の刊行物ではRCP8.5シナリオ（今以上の温暖化対策をとらなかった場合）しかなかったのですけれども、RCP2.6（厳しい温暖化対策をとった場合）の資料も載っているというのが一つの売りになっています。

もう一つは、10年近く海洋に関する予測情報というのがなかったのですが、これも載せていますというところが売りになっています。

それから、構成としまして、概要版、本編、詳細版と3種類の情報がございます。書いてある内容は、大まかには同じですけれども、かなりコンパクトにまとめた概要版から、

非常に詳しく書いてある詳細版ということで、それぞれの立場や関心に応じて情報を選んで見ていただけるようになっていきます。

目的としては、国や地方自治体、事業者、市民などが気候変動対策に使える資料というのを目指してつくっています。まさに、札幌市の気候変動対策行動計画をつくる時にこれがあれば、R C P 2. 6の資料なんかも掲載できたかもしれません。今後5年後になるのかなと思うのですが、改定するときには使えるものになっていくだろうというふうに思っています。

ここでは要素の一つ一つを細かく申し上げませんが、詳細版のコラムには、ハイエタスと十年規模変動や、今後の治水計画の在り方、海洋酸性化の話題などが載っております。

付録には、いくつかある将来予測の気候モデルの比較が載っていたり、将来予測の利用の例が具体的に載っています。札幌市の雪まつりの事例が載っていますが、他の都道府県の事例も参考になると思います。

裏面は、具体的にこんな要素がありますよということで、上は観測事実（これまでに観測されたもの）、下は将来予測（21世紀末の日本は20世紀末と比べてこのぐらい変化しそうです）を1枚紙で見せているものです。下の将来予測は、概要版の1ページに含まれています。上は、オリジナルで同じような構成でつくってみました。

以上、情報提供をさせていただきました。

○山中会長 この機会に、小司委員に質問がありますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○山中会長 そのほか、情報提供や連絡などがある方はおられますでしょうか。

○有坂委員 言い忘れたことがございます。

先ほども話に出ていたのですが、トレードオフやシナジー効果について、コラムでもいいので、やはりどこかにちゃんと書いていただきたいと思います。その説明があるのとないのでは、やはり大分違うと思います。特にトレードオフに気をつけながら対策をやっていく必要があるということはしっかり書き込んでいただきたいと思います。

先ほど、確か荒木委員からもありましたけれども、カーボンフットプリントの問題について、コラムに食品ロスの話があったと思いますが、そこにでも地産地消を推進することがエネルギーの削減につながるということを書いていただくといいかなと思いました。

52ページに、「食品ロス削減と気候変動対策」と書いてありますがけれども、たくさんものを輸入して捨てているというところに絡めて、なるべく近いものを食べることがエネルギー削減になります。これは生物多様性にも関わっていて、日本のSDGs進捗状況に対する評価として陸も海も生物多様性がレッドカードになっているのは、他国に食料や木材等をかなり依存しているという事情が大きいので、そういった部分も絡めて書いていただけるといいと思います。

もう一つ、災害のところですが、68ページの基本方針のグレーがかっているところで、

「自助・共助・公助の考え方に基づき」と書いてあるのですけれども、その順番を逆にして、公助・共助・自助という順番にされたらいいかなと思いました。すごく細かいことで申し訳ないですが、市で書いてあるものですから、言葉として自助から入るより公助からのほうが安心というか、頼りがいがあるという感じがします。

すごく細かいところで申し訳ないですけれども、以上です。

○山中会長 今のは検討してください。

○事務局（東館環境政策課長） 今の点について、おっしゃる部分も分かるのですが、やはり自助があって、共助があって、そこで補えないものを公助としてしっかりやっていくというのが基本的なフレームというふうに、我々としてはそんな印象を持っています。

ただ、今日いただいたご意見はご意見としていただいて、最終的にどのような整理をさせていただくかは、こちらのほうで検討させていただきたいと思います。

○山中会長 今の部分は、世の中で非常に議論がある部分で、いろいろな意見があると思います。

他はいかがでしょうか。

○荒木委員 いろいろ呼応するように言ってしまうと恐縮ですけれども、ご意見を聞いて、農業のことで言うと、これは北海道のことですが、主要農作物の安定的な供給及び品質の確保といったような、やはり食べ物をどういうふうに通守っていくか、農産物の在来種や固有種をいかに守っていくかというふうな視点もあるかなというふうに思いました。私は、札幌市のことは勉強不足ですが、札幌市としてどういうふうに取り組んでいくかということも行動計画に書かれてもいいのかなというふうに思いました。

以上です。

○山中会長 他に、情報提供、連絡等がなければ、これで会を終了させていただくのですが、第11次審議会としては本日の会議が最後になります。残り時間の限りはありますけれども、各委員から一言ずつ、2年間の感想、振り返りを伺っていきたいと思います。

五十音順となってしまうのですが、荒木委員からお願いいたします。

○荒木委員 私自身は、こういった会議に参加するのが初めてで、2年間、非常に勉強させていただきました。中には的外れなコメントをしまったこともあるかなと思いますけれども、先生方、また、札幌市自身がどういうふうな取組をされているのかというのを本当に学ばせていただきましたし、むしろ、私はすばらしい都市に住んでいるのだなということで、非常にいいなと思いましたがし、誇らしく思ったこともあります。

コメントとしては、今回は環境ということなのだと思いますし、日本の政策自体はやはりどうしても縦割りになってしまふ部分があります。そうすると、私の専門である環境と健康の部分というのは、行政的には区分が少し違ふところもあるのかなと思いますが、やはり環境と健康というのは密接に関係しているのだから、そういった管轄の違いを乗り越えて健康増進にも迫ることをこの環境の中でももっとアピールできると、本当にいいものになっていくかなというふうに思いました。

もう一つは、本当に対策自体も非常に多様性に富んだものが必要なのだなということに深く思いました。今日もトレードオフという話がすごく出ていましたけれども、一つだけ推し進めるのはやはりすごく危険な部分があります。具体的に言ってしまうと、例えば、ソーラーパネルやメガソーラーというのは、太陽光発電をするという意味がある反面、廃棄物や森林開発の問題にどういうふうに取り組むのかというのがありますので、やはり市として様々な方策をエンカレッジできるような政策ができていくと、そういったようなガバナンスができると思います。

この先、2030年あるいは2050年になると、考え方も本当にがらっと変わってしまう中で、あまり一方方向に行かないように、いろいろな可能性を見ながら方向転換するためには、やはり考え方、対策の多様性というのがすごくキーワードになってくるのかなと思って参加させていただきました。本当にどうもありがとうございました。これからも期待していますので、よろしくお願いします。

○山中会長 有坂委員、お願いします。

○有坂委員 私も、このような場で委員をさせていただくということが初めてでしたので、あまりうまくできなかったなという反省しか思い浮かばず、もっとふさわしい人がいたのではないかといろいろ考えてしまいました。

この会議に参加させていただいてすごく感じたのは、SDGs というものが非常に注目をされている中で、経済、社会、環境がバランスよくというふうに言いますが、ここは環境審議会ですから、環境というものに軸を置きながらいかに社会と経済を考えていくかということが求められているということです。

環境という言葉自体は、自分の周り全てを指しますから、そういう意味では、社会や経済ということももちろんそうですが、やはり北海道の特質というか、魅力の一つでもある自然環境と都市というものをどうバランスよく共存させていくかというところで、世界のモデルになるような札幌市であってほしいなというふうに改めて思いました。

今回、気候変動対策行動計画を一緒に考えさせていただく中で、具体的な取組や活動というものにより焦点が当たっていましたが、それが何のために必要なかという倫理感、その思想や哲学的な部分が本当はすごく求められているのだろうと感じています。科学技術だけで解決しようとするのではないというか、技術を使う側の倫理感を踏まえたことを、もう少し政策やいろいろなことに反映できるようになるといいなと思いました。

ただ、倫理観や思想を踏まえて計画づくりを進める手法というのが私の中で思いついておらず、うまく言葉にすることができなかったのですが、何かその大切さみたいなことを改めて気づかせていただきました。私自身、とても刺激的な機会になりました。

ありがとうございました。

○山中会長 大沼委員、お願いします。

○大沼委員 前期からの引き続き残留組の1人として今回参加させていただきましたが、今回は自分の中ではあまり貢献できなかったなというか、お役に立てなかったなという反

省ばかりです。

前期は基本計画をつくるということで、ワークショップ、あるいは、審議会の中でもさらにグループに分かれてかなりインテンシブにやっていって、役に立ったかどうかは分からないけれども、何かたくさんやったような気がしたという錯覚だったらごめんなさいというところがありますが、今回は、ただ座って何か言っていただけだなという点で、自分では大いに反省しているところです。

そうはいつても、僕は、会議がすごく大嫌いなのですけれども、それでも、この審議会はかなり楽しませていただきました。それは会長の差配もあるでしょうし、市の環境局の雰囲気もあると思うのですが、予定調和ではないというか、根回しが十分過ぎないというか、全くしないのもまた問題ですが、そういった会議の在り方や自由な雰囲気というのはそれなりに好きだし、楽しませていただいたというのは不謹慎な言い方なのかもしれませんが、いてよかったなというふうに個人的にはすごく思っております。

以上です。

○山中会長 河本委員、どうぞ。

○河本委員 この2年間、どうもありがとうございました。

会議への欠席が多く申し訳ございません。

観光分野の専門家からの立場で参加させていただきました。どちらかという環境については門外漢であり、勉強不足だったのですが、皆様から多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。

観光の側面で少しお話しさせていただくと、この資料の中にも出てきますが、環境面でのライフスタイルの「行動変容」が市民生活にも求められることになってくるかと思えます。このコロナ禍で「観光」はまさしく行動変容が求められた事例だったかと思えます。今まで札幌市民は、東京など道外や海外に観光に行っていたのがほぼ行かなくなったかと思えますし、マイクロツーリズム（近隣観光）といいますか、多くの札幌市民は近くの公園や近くの場所でレジャーを楽しむことが多くなったのではないかと思います。

このようなコロナ禍の悲劇的な状況の中で、ライフスタイルの行動変容をさせられるというのは本当にもうなくてよい事態といえましょう。一方、環境においては、ある時には一部強制的な面も含まれるのかもしれませんが、「やわらかな形」で、これからの10年間において、市民自らが何らかの「行動変容」を実現することが期待されるかと思えます。

観光の側面でいえば、もう一つ、海外及び道外から来た環境に係る研究者や政策担当者、一般観光客を含めた多くの人が、ツアーや研修旅行などで、「環境の勉強をしたいなら札幌に！」と言われるような、気候変動対策の先進都市、見本になる最新的事例が見られる都市となってほしいと思えます。そして、若い人たちにも「環境先進都市に住んでいる」という自信、プライドを持てるような都市になればいいと思っております。その面では、この10年、自分たちの行動が試される期間かと思っておりますので、今後とも私も微力ながら何らかの形で協力させていただければと思っております。

本当にありがとうございました。

○山中会長 喜多委員、お願いします。

○喜多委員 2年間、ありがとうございました。

最初の1年は、市民活動という形で商店街活動だったり市民活動を行っていたのですが、後半の1年が何と保育園の園長になりまして、保育園の中で子どもたちと関わるが増えて、この間は、札幌管区気象台の小司委員に行事の際の天気はどうみたいな感じで伺ったりとか、個人的なところでつながっていたりしています。

まちづくりと環境というのは、本当にセットで考えて、さっき石井副会長がおっしゃったような、まちの中で環境を考えるような、コミュニティーの中で考えるような場所ができていったらいいなというふうに思っています、自宅を建て替えてみんなが集まれる場所をつくったのです。コロナであれなのですが、その中で環境の話を取り入れた集まりなども考えていきたいなというふうに思っています、ぜひ自宅を活用して有坂委員とかと一緒に何かできたら、また、家が北大の近くですから北大の先生と何かできたらいいなというふうに思いました。

本当にまちづくりの視点からだったのですが、子どもたちの視点も取り入れてくださって、本当にありがたかったなというふうに思っています。園便りに環境のことも加えながら、子どもたちやお母さんたちに啓発していけたらいいかなというふうに思いました。

ありがとうございました。

○山中会長 次は、佐々木委員、お願いします。

○佐々木委員 私は、今日が初参加でございますので、2年間ありがとうございましたではなくて、2時間ありがとうございましたという感じになると思います。

商工会議所の中のSDGs推進特別委員会という立場で参加させていただきました。

本業は、北海道コカ・コーラボトリング（株）で勤務しております。飲料水の製造販売を行っております。

こういった関係の会議に出るのは初めての経験だったのですが、今日お話をお伺いしまして、非常に専門性が高く、網羅性がある各専門の立場からいろいろな意見が出た非常に高いレベルの会議だなという印象を受けました。

あくまでも活動主体は札幌市民であり、企業者であるわけですから、この活動がよりメッセージ性の高いものになっていくように進化していければ、さらにいい方向に向かうのではないかというふうに思います。

本当にありがとうございました。

○山中会長 小司委員、お願いします。

○小司委員 札幌管区気象台から参加させていただきました小司です。

私も、この2年のお付き合いだったのですが、この会議は、皆さんがあまりにも忌憚のない意見をたくさん言うので、最初の頃はびっくりしておりました。それを山中会長がきちんとまとめて、お上手に話を持っていっているなど本当に感心していました。そ

して、次の会的时候には、ちゃんとその意見を取り込む形で資料をつくっていつている札幌市の環境局の皆様も、すごく丁寧な仕事をされているなというふうに本当に感心して参加しております。

気象台としては、もう本当に観測事実と将来予測の情報を間違えないように伝えるという、それだけでできればいいかなというふうに思って、割と軽い気持ちで参加させていただいていたのですが、この審議会にずっと参加させていただく中で、自分自身のためになりましたし、勉強になりましたし、一市民として行動を見直すようなきっかけにもなったなというふうに非常に思っております。

参加させていただきまして、本当にありがとうございます。

○山中会長 田部委員、お願いします。

○田部委員 北海道大学の田部です。

2年間、本当にありがとうございました。

私も、前回の審議会から継続して加えていただいておりますが、今回、環境白書や行動計画といったものをしっかりまとめ上げるということに主眼が置かれていたのかなと。そういう点で、私はほとんどお役に立てなかったのかなと思っています。私の専門としては、エネルギーの定量的なということですので、ここは反省しても、また繰り返しても、多分同じ結果かなと思っています。

一方で、今回は定量的とか時間的な話題というのは主眼ではなかったと思うのですが、そういった視点から見せていただきますと、非常にいろいろな施策をやられていて、これからの計画もされていて、札幌市は先進的ですねばらしいと思います。

さらに、ゼロカーボンシティというすばらしい目標、ただし、非常に困難な目標を挙げて取り組んでおられるので、本当に歓迎しております。

そこで、私が繰り返し申し上げているのは、こんなにいろいろなことやっているのに、やはり現状では達成は難しいということ、市民の皆様にはちゃんと理解いただくという視点も大事ではないかなと思うのです。決して、もっとやらなければいけないということではなくて、こんなにやっているけれども、まだまだで、それを皆さん一緒にやっていきましょうと。何か間違っていて結構できているみたいなメッセージになっていただきたくないというのを繰り返し申し上げます。

そういった意味で、最後は、札幌市のすばらしい施策に感謝を申し上げて、どうもありがとうございました。

○山中会長 遠井委員、お願いします。

○遠井委員 酪農学園大学の遠井です。

皆さん、2年間、どうもありがとうございました。

まずは、この2年前には予測もできなかったような社会の急激な変化の中で、予定どおり着々と計画を進めて完成されたということについては、非常に深い敬意を持って伺っております。

それから、また、何もしていないのに毎回言いつばなしで本当に申し訳ありませんでした。文句ばかり言って会長も議事進行に非常にお困りになられたのではないかと思いますし、それを書き留めてまた配慮しなければいけない事務局の方に、大変なご負担をおかけしたことを深くおわびしたいと思います。

ただ、本当に、これに参加させていただきまして、いろいろな分野の方々から違うバックグラウンドからのご意見を伺うことは、私自身も非常に勉強になりました。ありがとうございました。

また、皆さんもそうだと思いますが、大学では、このコロナ禍の下で、急激にオンライン化が進んでおります。当初、2030年、2050年の世界は絵空事だったのが、実感を持って受け止められた、こうやって進むのだなというのが分かってきたなという感じですよ。

その一方で、社会の中で非常に大きな格差が出てくるということもあり、同じことが起きていくのだなと、少し先取りをしているような印象もあります。こういうことを踏まえて、気候変動対策を進めていくということは、先ほど皆さんからご指摘をいただいたように、誰も傷つけないような計画で進むわけではないので、その辺りもきちんと説明をしながら、みんなで合意をして進めていくのが必要だと改めて思ったところでした。

一方で、毎回こうして会議に参加させていただいて資料を読んだりすると、2030年、2050年があたかも明日、明後日のことのように話をされていて、そういう印象があったのですが、例えば、私の大学の学生などと話をすると、そういう意識が全然追いついていないというか。今週、オンラインで1年生とのディスカッションの時間が少しありましたが、多くの学生は社会がこれから急激に変わるという実感をまだ持っていないのです。こうしていろいろな議論があり、政策策定に関わっている人の意識と、次の時代の社会の担い手になるべき人たちとの間に随分ギャップがあるなというのを改めて痛感しているところです。特に、教育機関にいる身としては、その辺りのギャップをどう埋めていくのか、というのが課題だと感じているところです。

以上です。ありがとうございました。

○山中会長 向田委員、お願いします。

○向田委員 北海道地方環境事務所の向田です。

私は、人事異動の関係で第5回と第6回の2回、会議に参加させていただきました。

感想ですけれども、前回、第5回に参加したときには、正直、小司委員がおっしゃったように、皆さん自由にいろいろご発言される中で圧倒されたというのが本音でございます。

札幌市は、国から数多くの温暖化対策の関係の計画をつくりなさいといわれる中で、今回それらの計画を一本化されたのは、非常にご苦勞なことだったと思いますし、画期的なことではなかったのかなと思っております。このご努力には、本当に敬意を表したいと思います。

今度は、この計画を行動に移していかなければいけない、実際にやっていかなければいけないわけですが、ご存じかと思いますが、環境省では、このゼロカーボンの中で、地域の脱炭素化を推進しなさいというミッションをいただいております。そして、12月に環境省が地域の脱炭素化について、官邸の中で初めて会議体を持つことになりました。予定では、この5月か6月には、国民のライフスタイル等の分野を対象とした脱炭素のロードマップをつくるとしておりますので、それができた暁には、ぜひ一緒に札幌市の行動計画も合わせて取り組ませていただきたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

どうもありがとうございました。

○山中会長 石井副会長、お願いします。

○石井副会長 まず、2年間、ありがとうございました。

特に、会長、本当にありがとうございました。

二点です。

環境の行政は、今、守る環境から創る環境へということで、節目を迎えています。守るというのは、規制したり、注意したり、協力をお願いするというような行政のスタイルですが、これからは創るということですから、具体的に札幌市が事業を行うのではなくて、みんなに事業を行ってもらわなければいけない、そういうような仕掛けをするような行政のスタイルがこれから求められているのかなと思います。土木や経済部局など、札幌市にはいろいろな部局がありますが、そういう部局と肩を並べて環境というものがいろいろな事業をする場所になってきたのかなというのが実感としてあるので、まず、そういった方向に向けてやっていただきたいというのが1点目です。

2点目は、いろいろなギャップがあるということです。世代間のギャップ、同じ世代でも意識のギャップがある中で、意識の高い人、あるいは、無作為の人ということでいろいろありましたけれども、やはり意識の高い子どもたちもいるわけです。さっきキッズコメントの話がありましたが、むしろ僕たちは意識の高い子どもたちからお説教を受けなければいけないのではないかと思います。我々は、若い子どもたちからのメッセージを積極的に受け取って、こういった審議会の中でメッセージとして入れていくということも大事なのかな、何かそんなような逆ギャップというか、逆世代の情報更新というようなところもこれから考えていただくと、なお、いいかなと思います。我々の世代でも意識の高い方、意識の低い方がいらっしゃると思いますが、子どもに言われれば聞きます。分別を始めたときも、我々は、まず小学校と幼稚園の子どもたちに分別を教えて、家に帰ったらお母さん、お父さんに分別を教えてねと言ったのが環境教育の始まりです。これからは、そのような子どもからのメッセージを大事にしたらいののかなというのが僕のアイデアです。

以上です。ありがとうございました。

○山中会長 最後は、私になります。

この環境審議会に加わるときには、大沼委員がいる、石井委員がいる、平の委員として

どこかに座っていればいいと気楽に受けてしまったのですが、皆さんの推薦を受けて座長になってしまいました。

このように、私の話はいつも漫才みたいで大変問題ですけれども、つたない司会進行へのご協力をありがとうございました。

この2年間は、札幌市でゼロカーボンをと。国がまだ煮え切らなかったときにゼロカーボンというふうなことを打ち出したのは、やはり先進的なイメージではないだろうかと思えます。

また、こことは違いますが、道庁でも、石井副会長とコンビを組んで、温室効果ガス実質ゼロに向けた懇談会の座長をさせていただいて、北海道としてのゼロカーボンを目指すという取組をまとめさせていただきました。そういう意味で、この2年間は、北海道や札幌のいろいろなところで責任を感じつつ、一生懸命やらせていただきました。

特に、最近の気候変動に関しては、皆さんの予想を超えて、私も、この人生ずっと温暖化予測をやってきたわけですけれども、いよいよ牙を剥き出したわけではないですが、始まってしまったなという感じがします。

その中で、一つの希望は、若者たちが声を上げ出したということです。例えば、この大通りでも、F r i d a y s F o r F u t u r e というような若者の取組がありますし、その中で気候非常事態宣言を出してほしいというような取組もあります。私も、9月25日の気候アクションデーでは、こそと街頭に立っておりました。子どもたちや若者が主役ですから、一大人としてこそと立ってプラカードを持ったりとかしていました。

やはり、現世代が何もしないということ、諦めるということが、何もしない人の罪、不作為の罪ではないか、そう深く考えるようになりました。我々、ここに来た方は、専門性を持って、いろいろなことをやっているのですけれども、その中で何も行動しないというのが罪だという意識を持ちながら考えてきました。

その割には、私は、つたない座長で、うまくいったかどうかは分かりませんが、少なくとも、今回、行動計画をまとめたり、あるいは、様々な意見で環境白書もよりよくなったと思っております。それも、皆様のご協力と、事務局がとても真摯に考えてくださって、ここで出た意見を最大限取り込んだすばらしい形、固さではなくてやわらかさを感じるような白書になったのではないかとうれしく思います。

こういうこともありまして、あつという間の2年間でしたけれども、この会は非常に本音をぶつけ合うところと、その中でもけんけんごうごうというよりは真摯に環境を考えていこう、すばらしい札幌市をつくっていこうというところが見え隠れして、すばらしい議論ができたのではないかと思います。

環境も重要、地球も重要ですが、人々の暮らしも重要、社会、経済、環境全て重要ですから、こういう会を環境だけではなく札幌市として地域のコミュニティーも含めて広い立場で議論していくような場をつくる、そういうことができ、かつ、この場でもそうですし、区レベルでも、また、小さなコミュニティーレベルでもそういうことで、SDGsの

精神で言えば、将来はトランスフォーミング アワー ワールドですから、そこで、私たちの社会をどう変えていきたいか、そういうところの議論をしていかないといけない、まさにそういうときにこういう場に参加させていただきまして、ありがとうございます。お礼を申し上げます。

それでは、ここで、最後に、事務局から連絡事項があります。

事務局、お願いします。

○事務局（東館環境政策課長） 委員の皆様におかれましては、2年間の長きにわたりまして、環境白書、また、行動計画の検討に当たって、たくさんの貴重なご意見をいただきまして、事務局一同、改めて感謝申し上げます。

今後、事務局におきまして、白書の編集作業を引き続き進め、また、行動計画についても、パブリックコメントを経まして、それぞれ3月までに確定させたいと考えております。

白書、計画の冊子がそれぞれでき上がりましたら、委員の皆様へお送りさせていただきますので、よろしく願いいたします。

では、最後に、環境都市推進部長の菅原より、一言、ご挨拶を申し上げます。

○事務局（菅原環境都市推進部長） 改めまして、環境都市推進部長の菅原でございます。

本日は、最後まで貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

また、2年間にわたって、環境基本計画の進行管理や、温暖化対策推進計画の改定につきまして、幅広い視点でのご審議をいただき、ありがとうございました。

気候変動対策を取り巻く状況が目まぐるしく変化する中、ゼロカーボンシティを宣言し、高い目標を掲げた計画の策定を目指して皆さんと議論できたことは、持続可能な都市を目指す上で大きな一歩であったと感じています。

今後、ゼロカーボンの実現に向けて、庁内の施策を推進する際の規範として、また、市民、事業者などの各主体が取組を進める際のよりどころとして活用されるよう、普及推進してまいります。

また、気候変動対策のみならず、資源循環や自然共生に関する課題など、環境基本計画で掲げる政策の達成に向けましても、皆さんとの議論を踏まえ、リニューアルした環境白書を活用し、今後も環境審議会でも点検評価していただきながら取組を進めてまいりたいと考えております。

本日も、私たちの気づかない視点からたくさんの意見をいただきました。その中には、すぐに取り入れたいと思うもの、興味深いアイデア、少し時間と調整が必要かなと感じるものもありました。今回の計画や白書ということだけではなくて、いただいた意見を参考にしながら、取り組んでまいりたいと思います。

先ほどの感想では、お褒めの言葉や期待する言葉をたくさんいただきました。そういった言葉をよい意味でプレッシャーと感じながら頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

第11次の審議会は今回で任期を迎えますけれども、委員の皆様には、今後も様々な機

会でご協力いただくことと思いますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。
2年間、ありがとうございました。

3. 閉 会

○山中会長 それでは、以上をもちまして、第11次札幌市環境審議会第6回会議を終了いたします。

本日は、どうもありがとうございました。

以 上